

在セネガル日本国大使館月報

2026年6月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 1日、ロー首相率いる新内閣発表。
- 22日、ンジャイ前国民議会議長が同議会第1副議長に選出。
- 29日、国民議会で憲法改正案が多数決で可決されたことを受け、ファイ大統領は憲法改正案を国民投票に付すことを決定。

(外政)

- 17日および18日、ファイ大統領はアフリカ人奴隷貿易に関する国連決議の採択に向けた今後の取り組みに関するハイレベル協議会議に参加するためガーナを公式訪問した。
- 21日から23日にかけて、ファイ大統領はドイツを公式訪問し、ドイツ・セネガル経済デーやアフリカ・ビジネス・ハブに参加した他、メルツ首相、シュタインマイヤー大統領とそれぞれ会談を実施。

(経済)

- 15日からIMFミッションがセネガルを訪問。派遣団は、セネガル当局の継続的な取り組みと、脆弱性に対処しようとする姿勢を評価。

カーボベルデ

- 19日、ネーヴェシュ大統領がヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ氏を首相に任命し、閣僚15人、閣外大臣3人から成る新内閣が発足。

ガンビア

- 9日から12日、ダカールでセネガル・ガンビア大統領評議会第4回会合が開催され、バロウ大統領、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣、ジョベ第2外務次官らが出席。両国大統領間及び外相間でも協議が行われ、二国間協力の優先分野を概説した「ロードマップI」および「ロードマップII」が採択されたほか、戦略的分野における協力をさらに深化させることを目的とした9件の二国間協定及び覚書が署名された。

ギニアビサウ

- 8日、ヴィエイラ・テ暫定首相は電力、環境、教育、都市管理、漁業部門に関する緊急措置を講じる決定をした。
- 10日、国民移行評議会(CNT)はCPLP(ポルトガル語諸国共同体)の加盟停止措置は不当であるとし、また加盟復帰に関心がない旨の声明を発表。

セネガル

(出典は Le Soleil 紙、RFI、大統領府 HP、セネガル外務省 HP、APS、Jeune Afrique、ロイター、Sika Finance。)

(内政)

内政一般

- 1日、ローク首相率いる新内閣発表。
- 5日、臨時閣議を開催。
- 6日、PASTEF党大会が開催され、ソンコ氏が党首に再選。また7日、ダカールアリーナにて大規模な民衆集会を開催。
- 12日、国民議会のジャロ副議長とンバケ副議長が辞任。
- 15日、ソンコ元首相は France24 と RFI による独占インタビューに応じ、大統領との間に政治的・政策的な意見の相違はあるものの、国を分断させるような争いではないと主張。また無秩序な債務再編には反対しており、現政権が勇気をもって一部免除の交渉を行うことを期待しているとした。
- 17日、ソンコ氏の国民議会への復帰をめぐり野党から提出された申し立てに関し、憲法裁判所は同申し立てを審査する権限を有しないと判断。
- 22日、ンジャイ前国民議会議長が同議会第1副議長に選出。
- 29日、国民議会で憲法改正案が多数決で可決された。これを受け、ファイ大統領は憲法改正案を国民投票に付すことを決定。

(外政)

二国間・多国間関係

- 3日および4日、第85回アフリカ議会連合執行委員会がダカールで開催された。
- 9日、ファイ大統領はワダニ・ベナン大統領を迎え、二国間関係の強化、経済・金融協力、西アフリカ地域が共通して直面する安全保障および政治上の課題について話し合ったほか、ダカール・コトヌー軸を強化し、サブ地域統合に新たな商業的活力を与えるという共通の意志が確認された。
- 10日、ファイ大統領はメルズグ・モーリタニア外相と会談し、二国間関係のさらなる強化について再確認。
- 9日から12日、ダカールでセネガル・ガンビア大統領評議会第4回会合を開催。
- 12日、ファイ大統領はアミーナ・J・モハメッド国連副事務総長と会談し、協力関係やサヘル地域の政治・安全保障情勢について意見交換した。
- 12日、フランス語圏選挙専門機関ネットワーク(RECEF)の会長にセン・セネガル選挙総局長が選出。
- 15日から19日にかけて、ECOWAS議会は再生可能エネルギーおよび農村電化に関する合同委員会の出張会議を開催。
- 17日および18日、ファイ大統領はアフリカ人奴隷貿易に関する国連決議の採択に向けた今後の取り組みに関するハイレベル協議会議に参加するためガーナを公式訪問した。
- 21日から23日にかけて、ファイ大統領はドイツを公式訪問し、ドイツ・セネガル経済デーやアフリカ・ビジネス・ハブに参加した他、メルツ首相、シュタインマイヤー大統領とそれぞれ会談を実施。
- 30日、ニャン外相はパリで開催されたフランコフォニー閣僚会議(CMF)臨時会合に出席。

(経済)

経済一般

- 7日、期限前に政府がユーロ建ておよびドル建て債券の利払い(合計約580億CFAフラン)を実施したことが明らかになった。

- 15日からIMFミッションがセネガルを訪問。派遣団は、セネガル当局の継続的な取り組みと、脆弱性に対処しようとする姿勢を評価。
- 22日のジョップ産業大臣によるテレビ番組での債務問題に関する発言を受け、翌23日に経済省は声明にて同省が唯一の公式な窓口であると改めて強調。

(社会)

- 4日、ファイ大統領はウッド元大統領の100歳を祝う式典に参加。
- 30日、ファイ大統領は大統領府にて開催された司法研修センター(CFJ)修了式に出席。

(文化・スポーツ)

- 8日、ファイ大統領はサッカーのU15代表と U17代表を迎え、それぞれの大会でのタイトル獲得を称え、賞金を授与。

カーボベルデ

(出典は Balai、O Democrata、Expresso das ilhas、カーボベルデ政府、A Nação、Voz do archipelago。)

- 1日、ガソリン・軽油等の新価格が発表された。6月の燃料価格は平均4.36%値上げとなった。
- 4日、カーボベルデ外交研究所が「対外政策・現代外交」をテーマにした書籍を発刊。
- 10日から16日、ネーヴェシュ大統領は米国に出張。ブロックトン市長、マサチューセッツ州知事、アトランタ市長への表敬訪問のほか、15日にはサッカーワールドカップのカーボベルデ対スペイン戦を観戦。
- 11日、カーボベルデの2026年経済成長率見通しを4.8%へと下方修正した旨発表。
- 15日、政府は、午後3時から行われるサッカーワールドカップのカーボベルデ対スペイン戦に備え、全国的に午後の特別休暇を付与。
- 15日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、政府庁舎にてヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ次期首相を迎え、政権移行プロセスを開始。
- 18日、アルマーダPAICV議員がカーボベルデ初の女性国民議会議長に選出された。
- 19日、ネーヴェシュ大統領がヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ氏を首相に任命し、閣僚15人、閣外大臣3人から成る新内閣が発足。
- 25日、ネーヴェシュ大統領は6か国(アルジェリア、ガーナ、ギニア、スイス、トルコ、ロシア)の新任大使から信任状を受領し、各国との関係強化を確認。
- 25及び26日、リマ・アマンテ・ダ・ローザ外務・共同体・国防大臣が4か国(アルジェリア、ガーナ、ギニア、スイス、トルコ)の新任非常駐大使と会談。
- 26日、ピント・プライア市議会議員がヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ新首相の後任としてプライア市長に就任。
- 28日から30日、第1回ブラジル・カーボベルデ経済フォーラムがプライアで開催され、デジタル人材育成や技術協力を含む経済連携強化が確認された。
- 30日、閣議で新政府の政府綱領案が承認され、7月3日に議会に提出されることとなった。

ガンビア

(出典は The Point。)

- 1日及び2日、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣率いるガンビア外交団は、ソウルで開催された韓国・アフリカ外相会合及び韓国・アフリカビジネスフォーラムに参加。
- 2日、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣は趙顕韓国外交部長官との二国間会談を実施。
- 8日から12日、ガンビア外務省と国際移住機関(IOM)は、行方不明のガンビア移民に関する地域協議を開催。
- 9日から12日、ダカールでセネガル・ガンビア大統領評議会第4回会合が開催され、バロウ大統領、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣、ジョベ第2外務次官らが出席。両国大統領間及び外相間でも協議が行われ、二国間協力の優先分野を概説した「ロードマップ I」および「ロードマップ II」が採択されたほか、戦略的分野における協力をさらに深化させることを目的とした9件の二国間協定及び覚書が署名された。
- 11日から12日、北京で人権ガバナンスフォーラムが開催され、ジャロウ副大統領が出席。
- 14日から21日、AU・ECOWAS・国連選挙事前調査団がバンジュールを訪問し、12月5日に予定されている大統領選挙の事前調査を実施。
- 16日、世界銀行はガンビア経済・財政レビューを発表、2025年成長率5.9%、貧困率低下を報告した一方で、財政脆弱性や女性の経済参加向上を課題と指摘。
- 17日、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣は国連ハウスで開発パートナーグループ(DPG)と戦略対話を実施。
- 19日、外務省はライト判事の国際刑事裁判所(ICC)判事選への立候補を正式表明。
- 20日、バロウ大統領が与党NPPの新マニフェストと9項目計画、デジタルプラットフォームを公式発表し、若者・女性支援やインフラ整備、食料自給強化などを柱とする今後の国家発展ビジョンを提示。
- 22日、トゥーレ前副大統領が2026年大統領選への無所属出馬を表明。
- 30日、バロウ大統領は全国民対象の新国家ID管理システム(GAM ID)を発表、デジタル身分証導入による行政効率化・経済包摂・国民保護を強調。

ギニアビサウ

(出典はギニアビサウ外務省、ECOWAS、Jeune Afrique、Radio Capital FM、O Democrata、DWIほか。)

- 4日、ペレイラPAIGC党首は、クーデター事件の容疑者として高等軍事裁判所への出頭を命じられた。
- 5日、ギニアビサウ海事港湾研究所(IMP)がスペインのガリシア大学拡張・環境普及センター(CEIDA)の招待を受け、海洋関係の機関を訪問し、協力関係を強化。
- 8日、ヴィエイラ・テ暫定首相は電力、環境、教育、都市管理、漁業部門に関する緊急措置を講じる決定をした。
- 9日、ワダニ・ベナン大統領がギニアビサウを訪問。政治的混乱後、調停の枠組み外では初のECOWASの国家元首による訪問となった。
- 9日、西アフリカ通貨同盟(UMOA)の地域金融市場において、新規公債発行により約2,290万ユーロを調達。
- 10日、国民移行評議会(CNT)はCPLP(ポルトガル語諸国共同体)の加盟停止措置は不当であるとし、また加盟復帰に関心がない旨の声明を発表。

- 12日、ンタ暫定大統領は、コレイア女性・家族・社会連携担当大臣を解任し、新たにスワッドウ・ドゥ・ブリートウ・アリフ・イブライム氏を任命。
- 17日、ジャオ外相はメルズーグ・モーリタニア外相と会談した。
- 17日から23日、ECOWASによる移行プロセス視察が行われた。
- 23日、ECOWASミッションの一員がギニアビサウで賄賂を受け取ったと報じられた。
- 24日、世界銀行はギニアビサウのインフレ率が2025年に0.9%に低下したと発表。
- 29日、ジャオ外相はモロッコ公式訪問中に、ブリタ・モロッコ外相と会談。

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)